



中学校・高校と二貫して 国際交流する力を育む「カナダ学」

北海道鹿追町立鹿追小学校

鹿追町立鹿追小学校では、中学校、高校と二貫した外国語活動、「カナダ学」を行っている。

「国際社会で生き抜く子どもを育てる」という目標を明確にし、「コミュニケーションを重視した活動に取り組んだ結果、積極的に英語を用いて交流を図ろうとする子どもたちの姿が見られるようになってきた。」

鹿追町として目指す
子ども像を明確化し
独自の教科を設ける

十勝平野の北西部に位置する鹿追町立鹿追小学校では、1年生から「カナダ学」として外国語活動を行っている。鹿追町には小学校が5校、中学校が2校、高校が1校あり、町全体で小中高一貫教育を進めている。「カナダ学」は、2003年度、町内すべての小・中学校、高校が文部科学省から「小中高一貫した英語教育（カナダ学）」の研究開発校に指定され、取り組んでいる教科だ。小学校では年間49〜65時間、中学校では年間35時間、高校では年間70時間

を充てている。03年度当初、教育委員会

で「カナダ学」を中心に立ち上げた舟越洋二校長は、「カナダ学」を始めた背景を次のように説明する。

「鹿追町では以前から、姉妹都市であるカナダのストニーブレンン町に高校1年生全員が2週間ほど短期留学していました。しかし現地に行っても、英語でのコミュニケーションが出来ませんでした。そこで、小学校から英語に触れる機会をつくる」と、「カナダ学」を設けたのです。また当時は、違う町の高校へ進学してしまう生徒も多く、子どもが進学したいと思えるような魅力ある教育をつくり、鹿追町を活性化したいという思いもありました」

小中高一貫教育では、「国際社会

でたくましく生き抜く子どもを育て

る」「ふるさとを愛し自慢する子どもを育てる」「自分の夢に挑戦し続ける子どもを育てる」を三つの柱とし、それぞれに対応する教科や取り組みを設けた。「カナダ学」は一つの柱に沿った取り組みだ。

5、6年生では
中学校の教師も授業を行い
中学校入学時の不安を解消

06年度には、すべての小学校が同じ方向性で取り組めるよう、町独自の教科書と教師用指導書（図）を完成させた。通常の45分授業の「Lタイム」以外に、毎日5分の朝学習の「Sタイム」を教育課程に組み入れ、

両者を関連付けたカリキュラムを作成している。研修部長の多治見忠先生は、その良さを次のように話す。

「新しい表現を『Sタイム』で前もって学ぶことで、『Lタイム』でのコミュニケーションの時間を増やせます。また、『Lタイム』で扱った内容を『Sタイム』で繰り返し、表現を定着させています。わずかな時間でも、英語に毎日触れさせたいと考えました」

「Lタイム」は学級担任が進行し、ALTやJTEが発音などをサポートする。5、6年生では、年間15時間、ALTやJTEに代わって校区の中学校から英語教師が参加する。「ねらいは、小・中学校の円滑な接続です。子どもは中学校で英語を

図 5年生の教師用指導書

単元ごとに子どもにどのような力を身に付けさせたいかを、「友だちの発表の良いところを見つかったり、さらに伝わりやすい表現の工夫を考えたりする」というようにまとめ、授業づくりの方向性を明確化。英語に苦手意識がある教師でも自信を持って指導できるよう配慮し、教科書の日本語訳やスキットの例を示している。また、教科書に盛り込まれた鹿追町とカナダの紹介、両者の文化の比較などについて、解説の仕方も例示している。自分の住む町への関心を高め、国際理解も深めてもらおうというねらいだ

*同校の資料をそのまま掲載

「1人の授業ではなく、全員の授業」で英語に親しむ子どもを育む

鹿追小学校では、「カナダ学」の部会を設置している。多治見先生は、研究の様子を次のように説明する。

「研究授業の指導案は、『1人の授業ではなく、全員の授業』という気持で作ります。一部の先生だけでなく、全員で役割を担い研究を進めています」

研究授業で配布する「参観シート」には見てほしいポイントを示し、意見欄を設けている。「参観シート」は授業後に回収し、改善を重ねる。他にも算数など複数の部会があるため、部会同士の良い刺激がある中で研究が進められているという。

原見寿史教頭は、学校全体で取り組む体制の存在がこうした雰囲気をつくり出していると話す。

「英語が得意でない先生もいます。自然と一緒に取り組むようになり、子どもの変容を感じることに。より、更に前向きな姿勢にもなります。本校では研究指定が一つのきっかけでしたが、先生方の意識を変えるために、まずは推進体制をつくること

子どもたちは、積極的に英語を話そうとするようになった。同校が毎年、カナダから訪問団を迎える際、自分から話しかけ、身振り手振りを交えてコミュニケーションを図ろうとする子どもが多い。中学校入学後、英語嫌いになる子どもは少なく、学習意欲も続いていくという。

舟越校長は、校長としての思いを次のように話す。

「『カナダ学』の立ち上げ当初は、その意義について、中学校や高校、地域とも多くの対話をしました。大変なこともありましたが、構想が実現し、子どもの実りになるのは本当に嬉しいことです。ただ、結果に満足して現状維持を図ると、低下につながります。校長として高い目標を掲げ、先生方と共に常に改善していくことが大切だと考えています」

School Data

北海道鹿追町立鹿追小学校

概要 1911(明治44)年開校。町内最大規模の小学校として、「カナダ学」や鹿追町の自然を通して環境問題を考える「地球学」など、小・中・高が連携した活動を中心に進めている。2009年度、通知表に「カナダ学」の欄を設け、ABC3段階評価を導入した。

校長 舟越洋二先生

児童数 256人

学級数 11学級(うち特別支援学級4)

所在地 〒081-0222 北海道河東郡鹿追町東町3-2

TEL 0156-66-2139

URL <http://academic4.plala.or.jp/shikasho/>

研究発表会予定 2011年9月16日(金)



鹿追町立鹿追小学校
舟越洋二 Funakoshi Yoji
校長

「『その取り組みは子どもにとって本当に良いものか』を絶えず検証し、改善を続けたい」



鹿追町立鹿追小学校
原見寿史 Harami Toshifumi
教頭

「これまでの伝統を生かしながら、より良い活動を追究したい」



鹿追町立鹿追小学校
多治見 忠 Tajimi Tadashi
研修部長 5年生担任

「目の前の子どもたちが何を求めているのかを常に意識し、それに向かって取り組む教師でありたい」